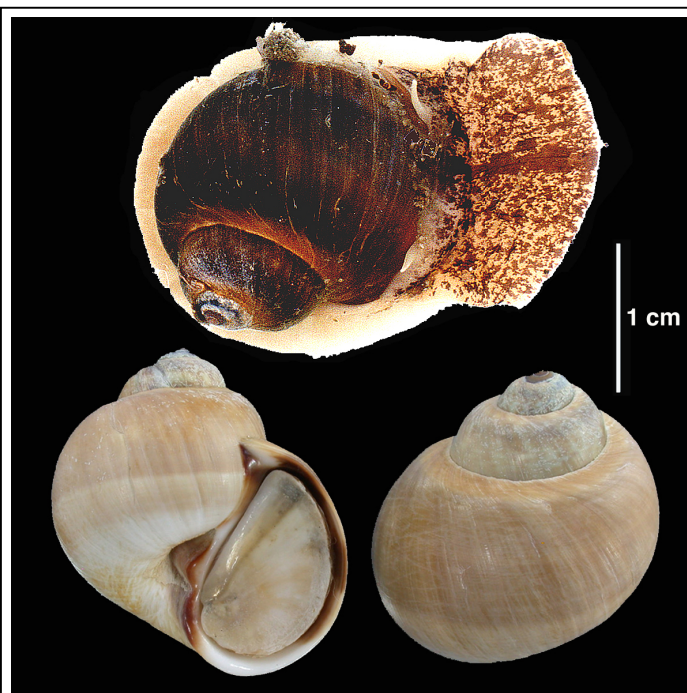


アダムスタマガイ *Cryptopnatica adamsiana* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾の泥質干潟から潮下帯にすむ。県内では、干潟と共に内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は 1980–2000 年にかけて死殻は比較的多く採集されていた (中山, 1980 : 木村, 1999) が、生貝は蒲郡市沖の潮下帯で小型の個体が数個体採集されただけであった。その後蒲郡市沖でも成貝が採集され (図示)、近年では三河湾の島嶼域の佐久島 (早瀬・木村, 2020)、日間賀島 (早瀬・他, 2019) の潮通しの良いアマモ場周辺の砂泥底より幼貝 (生貝) が少数個体確認された。また、知多半島の伊勢湾側からも幼貝 (生貝) が記録されていて (佐藤・他, 2019)、前回 (CR) よりランクダウンするべき種と評価された。



蒲郡市三河大島沖 (ドレッジ水深 2–5 m), 2002 年 5 月 23 日, 木村昭一採集

【形態】

殻径約 20 mm の球形で、殻はやや厚い。蓋は石灰質で白色、蓋の溝は浅く狭い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、県内では近年生貝の採集が報告されているが、生息地、個体数共に非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種 (黄海産の近似種 *Cryptopnatica huanghaiensis* は本種との区別が難しく分類学的な再検討が必要である)。房総・能登半島以南～九州まで分布する (木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、現在でも三河湾奥で比較的新しい死殻は採集できる。ただし、この死殻は他所から運ばれたアサリに混じていた個体が採集されている可能性がある。いずれにしても、県内では近年生貝の採集例が著しく少なく、危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島 (三河湾) の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33–79.
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1–15.
木村昭一, 1999. 佐奈川河口域観察会報告. かきつばた, (25): 14–17. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2012. アダムスタマガイ, p. 57.in : 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
中山 清, 1980. 知多半島南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10–12. 名古屋貝類談話会.
佐藤大義・浅田 要・永井 僚, 2019. 南知多町内海海岸 (伊勢湾) の貝類相. かきつばた, (44): 20–30.

(木村昭一)